

活動報告書

報告者氏名：教諭 沖 宏 所属：広島県立黒瀬特別支援学校 記録日：平成 25 年 1 月 11 日

【活動目的】

(1) ねらい

ICT 機器等の活用の校内体制づくり

本校では、タブレット型情報端末 8 台が整備されている。ICT 機器等タブレット型情報端末の活用事例が注目されている。本校で利用をするにあたり、取扱い方法や管理、基本的な操作方法、アプリのインストールの実際及び実践事例について研修する。

(2) 実施期間

平成 24 年 7 月 24 日（火） 13：30～15：30

(3) 実施者

総務部 視聴覚及び情報機器管理担当者 山崎, 沖

(4) 対象

本校 教員

(5) 内容

ア 研修① 13：30～14：00 ipad の取扱い方法及び管理方法について（講義）

イ 研修② 14：15～15：30 ipad の基本的な操作方法、アプリのインストールの実際及び実践事例について（演習）

(6) 研修方法

講義形式をとり、タブレット型情報端末 (ipad) の利用について、県教育委員会が定めている ipad の取扱いに関する規約と管理について、周知することができた。

演習形式をとり、ipad の基本的な操作方法等についての実際を市販のテキスト「ipad3rd perfect Manual」(株式会社ソーテック社)を参照しながら行った。11 台(学校備品として 8 台及びソフトバンクから貸出し 3 台)ある ipad を実際に触りながらその基本操作方法について研修を行った。

(7) 成果と課題

タブレット型情報端末 (ipad) が備品として導入されて、初めての研修会実施となった。26/42 人 (62%) の参加者があり、タブレット型情報端末 (ipad) の基本的な使い方について、実際に触ってどんなものか知ることができた。参考資料は ipad3rd 用のものであるが、図が多く内容も分かりやすくまとめられており、大変参考になった。基本的な操作方法やアプリのインストールはもちろんだが、特に「アクセシビリティ」について詳しく載せられており、障害のあるなしに関わらず使いやすい設計になっていることに関心があった。

1 【対象生徒の情報】

(1) 学年

高等部 3 年/18 歳, 男子 A

(2) 障害名

軽度発達障害（正式な診断はされていない）

(3) 障害と困難の内容

数の概念, 時計は確実である。3 桁程度の繰り上がり, 繰り下がりのある計算問題ができる。簡単な割り算, 掛け算の計算問題はできるが, 小 1 程度の加減に関する文章問題を解くことが難しい。物事を相手に伝えようとするが, うまく表現できないことがあり, 途中で自分から諦めてしまうことがある。話の中で軽い冗談ということが理解できず, まともに受け取ってしまうことがある。

2 【活動目的】

A について

(1) 当初のねらい

高等部 3 年の A が卒業後を見据えて, 情報化社会の中で, 情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ, その基本的な操作や情報モラルを身に付け, 適切かつ主体的, 積極的に活用できるようになり ipad 等タブレット型情報端末を普段の日常生活及び課題解決のツールとして使いこなせるような人間に成長して欲しい。

(2) 実施期間

平成 24 年 6 月 11 日～平成 25 年 1 月 11 日

(3) 実施者 沖 宏

(4) 実施者と対象生徒の関係

学級担任 8 名中, 1 名の生徒 A

3 【活動内容と対象生徒の変化】

(1) 対象生徒の事前の状況

ア 全体について

ipad (1st) の利用は 2 年目となる。平成 23 年度は校内利用のみだったが, 平成 24 年度は, 魔法のふでばこプロジェクト継続研究校として, 校内及び自宅での利用を行った。

イ 情報へのアクセス

A は, ipad の電源の On・Off 等ボタンの使い方を理解している。オンスクリーンキーボードによる文字入力の基礎及び切り替え方法について, 短時間に具体的な方法を簡単に指導した。自宅にパソコンがありインターネット接続環境がある。家庭でも日常的に使用している状況である。ローマ字によるキーボード入力ができる。学校の生活単元学習等における授業では, 効率的な検索方法として, 検索エンジンの検索窓に 2 つのキーワードを入力する方法があることを指導し, その方法を理解している。平成 24 年度広島県特別支援学校技能検定 (ワープロ) では 1 級を取得した。

ウ 読み・書き学習の基礎

毎日宿題として算数の計算及び国語の漢字や読みのワークシートを持って帰っている。自宅では, 分からない読みや漢字は通常の辞書 (紙) を使っている。持っている紙の辞書では, 筆順を調べることは難しい。

エ SNS の利用

SNS (facebook) が何であるか、聞いたことがなく、どんなものなのか理解していない。

(2) 活動の具体的内容

ア 情報へのアクセス

(ア) 文字入力的基础 (オンスクリーンキーボードの文字入力の基本)

文字入力的基础を確実に習得するために、「メモ」アプリを使いオンスクリーンキーボードによる文字入力の練習を自立活動の時間 (40 分/コマを 2 回) に行った。題材は、本校の学校行事「運動会について」の感想を原稿用紙に記したが、それを再度入力した。数字、日本語かな及びローマ字入力の切り替え方法等の基本をほぼ理解した。

(イ) インターネット検索窓による文字入力的基础

Web ブラウザー (アプリ名 : Yahoo! あんしんねっと HD for Softbank) を使い、情報収集する方法について入力方法を自立活動の時間 (40 分/コマを 1 回) に指導し、効率よく検索する方法として、複数のキーワード (2つのキーワード) を入力する方法を理解した。

イ 読み・書き学習の基礎

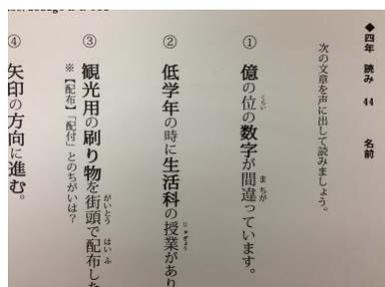


図 1 宿題ワークシート
「読み」

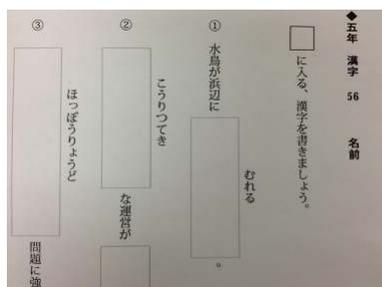


図 2 宿題ワークシート
「書き」

自立活動及び国語の宿題ワークシートにおける各種辞書アプリによる漢字の読み (図 1) 及び書き (図 2) は、通常の辞書とアプリ (大辞林、常用漢字筆順辞典 図 3) があれば解答をすることができることを知っている。これまで使い慣れてきている紙の辞書がよいという。



図 3 常用漢字筆順辞典



図 4 facebook の投稿

ウ SNS (facebook) の利用 (図 4)

(ア) ねらい (期待される教育的効果)

a facebook の利用により、これまで HR 指導をしている日記の記録をデジタル化し、タイムラインに

記録・整理するとともに担任との返信によるコミュニケーションの増加が期待できる。

b 進路指導における、職場実習等の各種感想等入力による自分自身の振り返りと担任からの評価指導を行うことによる自己認識・評価の拡大が期待できる。

c 卒業後の就業先の会社員等及び同級生とのつながりへの期待ができる。

d 担任等とのつながりによるケアの充実・自らが情報発信してコミュニケーションをしようとする意欲、姿勢の向上が期待できる。

e 「いいね！」による情報収集ができ QOL の向上が期待できる。

(イ) 具体的な手順及び設定

7月上旬 研究の概要について及び個人情報入力のプロテクトへの理解

7月8日 facebook に参加。基本的な個人情報は、最低限のものとして実施者が代理で入力した。

具体的には e-mail, 本名, 居住地, 誕生日 (期日のみ), facebook の URL 及び「プライバシー設定とツール」では、投稿の共有範囲を「カスタム」として、担任のみとした。

(ウ) 投稿内容

a 日記

自宅に ipad を持ち帰り、投稿の練習を目的に、日記を書いて投稿するように指導した。実施者は、投稿を確認して、コメントを行うこととした。

b 進路指導関係

職場実習、障害者合同面接会及び認定資格受験の感想

c 情報収集 (「いいね！」)

facebook ページ上部にある検索窓に文字入力することで、興味あることについて、facebook が開設されているページがあれば表示され「いいね！」ボタンを押す事で、情報収集ができることを指導した。

(3) 対象生徒の事後の変化

ア 情報へのアクセス

アプリ「メモ」では、文字を入力すると、オンスクリーンキーボードの上部に変換候補が表示される。辞書機能の精度が高いため、適切な変換候補が表示される。A の場合、慣れもあるようだが、「パソコンでもどちらでもうまくできます。」とオンスクリーンキーボードにも対応できるようになった。

インターネット検索は、有害情報へのアクセスできないよう標準のアプリ「safari」を機能制限して使用不可とした。代わりにフィルタリング機能があるアプリ「yahoo! あんしんねっと HD for softbank」で検索するよう指導した。設定は小, 中, 高校生モードがあるが、ランクを下げて中学生モードとした。知りたい情報を効率よく検索するために、2 つぐらいキーワードを入れると良いことを知り練習して確かめて、すぐに理解した。

イ 読み・書き学習の基礎

宿題ワークシートの国語では、漢字の読みは辞書アプリ「大辞林」を立ち上げて、「手書き文字入力機能」を使い文字を書いて検索して答えを出すことを理解した。手書きの認識精度が高すぎるのか、書き方の問題なのか原因は不明だが、該当の漢字が出てこなくて何回も試している様子が伺われた。

書き取り問題では、ipad から常用漢字筆順辞典を立ち上げて、検索場所に読みをオンスクリーンボードで入力し、候補の中から該当の漢字を選んで解答するようになったが、「紙の辞書と ipad とどっちが使いやすい？」と聞くと「紙の辞書のほうが何か勉強してるって感じがする。どっちでもいけます、大丈夫です。」という捕らえだ。

ウ SNS の利用

起動の仕方、当初と比べてコメント、ノートの入力方法は回数を重ねると理解して使い方が慣れてすばやくなってきた。

4 【報告者の気づきとエビデンス】

(1) 主観的気づき

ア 読み・書き学習の基礎について

書く学習では、紙の辞書より明らかに「常用漢字筆順辞典」で読みを入力して調べるほうが早くて効率的だと思うのだが、彼の場合は、紙の辞書が慣れていてどうしても、紙の辞書が優先になっている。効率性にはあまりこだわりをもっていないようだ。

イ SNS (facebook) の利用について

実施者が実施者の友人や企業等の「いいね！」ボタンを押すと、そのことについて表示されることから、自分の関係ない人の写真等及びコメントも表示される仕組みなのだが、その仕組みが自体が理解できないようだった。インターネットで情報を収集するのは、すぐに使用が可能な **ipad** が使いやすく、調べたいものを入力して情報を得ようとしていた。**facebook** の利用については、この **facebook** に投稿することにどんな意味があるのか、話はするのだがなかなか理解できず、分からないまま使ったという状況が続いた状態になった。しかし、可能であれば、今後話しを行い、アカウントを継続したままで、卒業後の就業先の会社員等及び今後同級生とのつながりへの期待と、担任等とのつながりによるケアの充実を目的に続けられることができればと思う。また、卒業後の人とのつながりをサポートする手段のひとつとして、このツールを大切にし、情報発信して、コミュニケーションツールのひとつとしても、うまく使いこなせるように少しずつ向上して行って欲しいと切望している。

5 謝辞

魔法のふでばこプロジェクト継続研究校として **ipad** を継続使用させて頂き、活用させて頂きました。大変ありがとうございました。事務局の皆様には、大変お世話になりました。お礼申し上げます。